

# 古河歴史見聞録

## 幕臣 福田甲斐守道昌

（名主家一族から旗本になったサムライ）

江戸の世もあと少しで終わる安政・万延・文久年間(1854～1864年)。井伊大老の安政の大獄や大地震、暴風雨に洪水、麻疹の大流行など天変地異を連想させる、不安に満ちた世の中。幕府旗本に福田甲斐守道昌という人物がいました。勝平、のち八郎右衛門、叙任して甲斐守・下総守を称し、隠居後の号は自昌。勘定吟味役として活躍した彼は、先祖代々の徳川将軍の家臣(幕臣)ではなく、長左衛門新田(現・長左工門新田)の名主福田長左衛門の一族。仕官して一代で旗本に出世しました。



▲文久武鑑(長左衛門新田福田家文書)

勘定吟味役とは勘定奉行と勘定所(現在でいう財務大臣と財務省)のお目付役で、その同意がなければ会計支出や人事異動もできず、たとえ勘定奉行であっても何もできませんでした。ちなみに、道昌の屋敷は、現在の秋葉原駅の近く、台東区台東一丁目にありました。

### 幕臣 福田道昌の登場

福田本左衛門の子道昌は、31歳の時、勘定所役人に新規召抱、幕臣(御家人抱席となり普請役格代官手附に任命されます。

幕臣は、将軍に拝謁できる御目見以上の旗本と、できない御目見以下の御家人とに分かれ、旗本はもちろん、御家人でも譜代之者は世襲が認められました。一方、抱席は本人一代限りの採用の者です(実際はその子が見習となり、数年後、新規召抱と称し、親の跡を継ぐことが多くありました)。

さて、幕臣の道昌は、代官を11年間務めるなど、諸役を異動しながら実績を重ね、評価され旗本へ昇格。代官時代には、支配する村が水害のため減免相当なのに、実質的増税との指令に対し、本庁の勘定所へ再考を求める上申書を提

出、硬派な一面をみせます。安政4(1857)年4月、ついに道昌は、幕臣が目標の一つとする勘定吟味役に進みます。この時、60歳。その在任中、将軍の居城で幕府の中心である江戸城本丸御殿の焼失に遭遇します。

### 万延の江戸城本丸御殿再建

江戸城本丸御殿は、表(儀礼・行事や諸役人の詰所)・中(奥)将軍の日常生活の場)・大(奥)将軍夫人や仕える者の居室と役人の詰所の三区域から構成、建坪は約1万1400坪(弘化再建の本丸御殿)。江戸時代を通して、火災で5回焼失、4回再建されました。安政6(1859)年10月17日夕七ツ時(16時)頃、中之口から出火、



▲万延度江戸城本丸御殿大奥向絵図(長左衛門新田福田家文書)

本丸御殿全焼。ただちに再建準備に入り、時節柄を考え、費用削減の造営方針が示されました。その造営中に大事件が起きます。井伊大老の殺害、桜田門外の変です。さて、本丸御殿普請御用掛に任命された道昌は、莫大な会計支出の監査や建物の完了検査を担当。そのため福田家には江戸城本丸御殿大奥絵図や御用留などの記録が残されています。

それらによると、財源は諸大名などの上納金や商人の御用金、そのほか国恩冥加金を募る方式を採用し、二〇三万四三五六両余という巨費を計上。また、相撲年寄追手風喜太郎率いる力士百人が工事の手伝いに参加しています。しかし、万延再建の本丸御殿も、わずか3年後に焼失、以後再建されず、明治維新を迎えます。

三和資料館では、館蔵資料展「幕臣 福田道昌」を12月25日まで開催していますので、ぜひ、ご来館ください。

三和資料館学芸員 白石謙次

### 【一般/小説】

モノクロの夏に帰る

額賀滯 著

1枚の写真が世界を変えた…。セクシャルマイノリティの書店員、保健室登校の女子中学生、家族にコンプレックスを持つテレビマン…。古い写真に秘められた記憶が解凍される時、若い彼らの心も動き始める。共感と感涙の物語。

出版社…中央公論新社

### 【絵本】

はっぴーなっつ

荒井良二 作

「わたしのみみは、ときどきとおくへたびをするんだよ…」あたらしい季節のはじまりには、とびっきりのはっぴーがつまっている！春からはじまり、夏秋冬とコマ割りでつづく、季節を旅する絵本。

出版社…ブロンズ新社

## 図書館の本棚から



### 【一般/地理】

いつか旅してみたい美しい日本の島100

パイインターナショナル 編著

猫神様を祀る神社がある仙台湾の田代島、アニメ「天空の城ラピュタ」のような世界観がある和歌山県の無人島友ヶ島…。旅心をくすぐる100の日本の島を、美しい写真と島の歴史や情報とともに紹介する。

出版社…パイインターナショナル

### 【児童書/文学】

だいたいぶく

魚住直子 作

新しいクラスになじめないそうだが出会ったのは、人と話ができるぬいぐるみの「だいたいぶく」。離ればなれになった持ち主のまりちゃんを、一緒に探してほしいと頼まれて…。

出版社…ポプラ社

中央公民館



## もうひとつの空 Another sky



古河は自然が豊かでおいしいものも多く、とても住みやすいまちだと思います。

Name アサンカディーパルさん  
From スリランカ  
Age 46歳(来日23年目)  
Job 印刷会社の機械オペレーター



私は学生として来日し、足利コミュニティーカレッジで日本についてさまざまなことを学びました。日本の誇れるところは、礼儀の正しさと高度な技術を駆使して生み出す高品質な製品の数々だと思います。これからも日本で多くのことを学びたいです。